

# 国語科学習指導案

日時 平成28年7月25日(月) 2校時  
 児童 3年生  
 授業者  
 場所

## 1 単元名 「アベンジャーズ・プロジェクト『2年生を救え！音読発表会』～三木 卓作品のまき～」～のらねこ～

### 2 単元について

#### (1) 単元観

本単元は、物語や詩を読み、感想を述べ合う言語活動を通して、各場面を構成する要素である登場人物の行動や会話に即しながら、場面と場面を関連付けてそれぞれの登場人物の性格を捉えて読んだり、目的に応じていろいろな本や文章などを選んで読んだりしていこうとする態度を養うことを目指している。

本単元で扱う中心教材「のらねこ」は、登場人物であるかわいがられることを知らない「のらねこ」と、ねこが好きな「リョウ」との会話を中心となって物語が展開し、5つの場面に分けられている。行動や様子を説明する叙述はなく、会話がそれらを補っており、会話を丁寧に読むことで人物の気持ちの動きがわかるようになっている。また、地の文はリョウの視点で描かれているためリョウの気持ちの動きを捉えることはできるが、のらねこの気持ちはリョウを通して描かれているため、それを想像するためには、のらねこの会話と行動から読み解く必要がある。のらねこの様々な特徴的な姿や性格を想像しやすい作品である。

さらに、本文は軽快で独特な文体で語られており、作品に魅力を感じる1つの要素となっている。これは、「会話中心による文体」ということもそうであるが、現在形を多用した歯切れのよい短い文で綴られていることが大きい。しかも、単なる地の文ではなく、リョウの心内語が含まれていることも、豊かに物語の世界を広げて読み進めることができる大きな要素となっている。

このような作品の特徴により、登場人物の行動や会話に即しながら、場面と場面とを関連付けてその性格を読むことに適している教材であると言える。

#### (2) 児童観

児童はこれまでに、文学的文章においては次のような活動を体験し、言葉の力を身に付けてきた。

これまでに児童の体験した活動	それによって獲得した言葉の力	前単元までに既に身に付けている言葉の力なので、本単元では活用を図るもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>○お気に入りの物語で<b>劇</b>を演じる活動</li> <li>○<b>お話の続き</b>を書く活動</li> <li>○<b>シリーズ</b>でお話を読む活動</li> <li>○物語の<b>紙芝居</b>を作る活動</li> <li>○物語のお気に入りの<b>場面</b>を紹介する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物の<b>行動や会話</b>に即しながら物語を読む力。</li> <li>○登場人物の行動や会話に即しながら読み、<b>場面の様子</b>を豊かに想像する力</li> <li>○目的に応じて本や文章を選んで読み、登場人物の<b>気持ちに厚み</b>をもたせる力</li> <li>○場面の様子に着目しながら読み、物語の<b>ストーリーやその順序性</b>をとらえる力</li> <li>○物語の好きな場面の様子について、登場人物の行動や会話に着目しながら、<b>場面の移り変わり</b>が特徴的なところを説明する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物の行動や会話に即しながらその気持ちを想像する力</li> <li>○場面の様子を豊かに想像する力</li> <li>○場面の移り変わりを読む力</li> </ul>

### 3 単元目標

自分のおすすめの三木卓作品を選び2年生に向けて音読で発表する言語活動を通して、登場人物の行動や会話に即しながら、その性格や気持ちの変化などを、叙述を基に想像して読むことができる。

### 4 評価規準及び道徳的学び

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	道徳的学び
ア 物語を読んで、自分の好きなどころや心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。	ア 同じ主人公が登場する作品や、同じ作者の作品を読んで感想を述べ合うために、シリーズの中から作品を選んで読んでいる。 イ 中心教材を読み、物語の大体の内容や場面の移り変わりの印象的なところを捉えながら読んでいる。 ウ 中心教材を読み、登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物の性格を捉えて読んでいる。 エ 中心教材を読み、登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物の性格や気持ちの変化などを、叙述を基に想像して読んでいる。 オ 自分が選んだ作品を読み、物語の大体の内容や場面の移り変わりの印象的なところを捉えながら読んでいる。 カ 自分が選んだ作品を読み、登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物の性格を捉えて読んでいる。 キ 自分が選んだ作品を読み、登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物の性格や気持ちの変化などを、叙述を基に想像して読んでいる。 ク 物語の好きなどころや心がひかれたところについて、どの叙述に基づいているか、自分の経験などどう関連しているかを明らかにしながら音読で発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。	ア 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、語句には性質や役割の上で類別があることを捉えながら読んでいる。	B 友情、信頼 登場人物の言動から信頼したり、友情を持って接したりすることのよさを読み取る。 読むこと(エ)

## 5 単元の指導計画（全9時間）

時	学習の流れ	教師の働きかけ	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの読書体験から、自分のお気に入りの物語を交流する。</li> <li>・アベンジャーズ・音読発表会でおすすめの三木卓作品を2年生に音読で発表するという見通しを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□既習の物語の挿絵を提示したり、自分の好きな物語について想起させたりしながら、物語について自由に交流できるようにする。</li> <li>□単元の見通しを持つことができるように、単元の大まかな学習計画を立てる。</li> </ul>	関ア
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心教材「のらねこ」を読み、感想を交流する。</li> <li>・教師が用意した「三木卓作品集」を読み、物語の好きなところや心がひかれたところを交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□中心教材「のらねこ」を読み聞かせすることで、物語に浸ることができるようにする。</li> <li>□教師が用意した三木卓作品集を紹介し、物語に浸ることができるように自由に読む時間を設定する。</li> </ul>	読ア
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心教材「のらねこ」を読み、登場人物や簡単なあらすじについて交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□感想を交流することで、「物語の謎」について話し合うことができるようにする。</li> <li>□中心教材「のらねこ」を読み、登場人物の性格や核となる叙述を交流することで、大まかな流れをつかむことができるようにする。</li> </ul>	読イ
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心教材「のらねこ」を読み、登場人物の性格について交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□中心教材「のらねこ」を読んだ後、「登場人物の性格」について交流することで、それを捉える登場人物の行動や会話に着目することができるようにする。</li> </ul>	読ウ
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心教材「のらねこ」を読み、登場人物の性格やその気持ちについて交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□中心教材「のらねこ」を読んだ後、「登場人物の性格やその気持ち」について交流することで、それを捉える登場人物の行動や会話に着目することができるようにする。</li> </ul>	読エ
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ「三木卓作品」を読み、登場人物や簡単なあらすじについて交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□自分の選んだ三木卓作品を読んだ後、登場人物の性格や核となる叙述を交流することで、大まかな流れをつかむことができるようにする。</li> </ul>	読オ
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ「三木卓作品」を読み、登場人物の性格について交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□自分の選んだ三木卓作品を読んだ後、「登場人物の性格」について交流することで、それを捉える登場人物の行動や会話に着目することができるようにする。</li> </ul>	読カ
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ「三木卓作品」を読み、登場人物の性格やその気持ちについて交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□自分の選んだ三木卓作品を読んだ後、「登場人物の性格やその気持ち」について交流することで、それを捉える登場人物の行動や会話に着目することができるようにする。</li> </ul>	読キ 言ア
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アベンジャーズ・音読発表会をひらき、2年生に向けて自分の選んだ「三木卓作品」を音読で発表する。</li> <li>・学習を振り返って、自分ができるようになったことについて交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□音読発表会の後、2年生から感想をもらうことで、自分たちが取り組んできたことに有用感を感じることができるようにする。</li> <li>□単元を振り返り、できるようになったことを交流することで、言葉の力の獲得を実感できるようにする。</li> </ul>	読ク

## 6 小中連携の視点

	小学校2年生	小学校3年生	中学校2年生
目指す 子供の 姿	<p>学年で「きつねのおきやくさま」の心に残った場面を音読で発表する活動を通して、登場人物の行動や会話に着目しながら、想像を広げて読む姿。</p> <p>言葉を楽しんだり、言葉に親しんだりしながら読書の世界を広げていく姿。</p>	<p>自分の選んだ「三木卓作品」で音読を行う活動を通して、登場人物の行動や会話に即しながら、その性格を捉えて読む姿。</p> <p>目的に応じて、様々な本を選びながら読んでいこうとする姿。</p>	<p>中心教材の作品と、その作品のモチーフとなった作品を比較する活動を通して、作者が中心教材の作者が込めたメッセージを捉える姿。</p> <p>文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる姿。</p>
手立て の 視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語意識を明確にした単元を貫く言語活動の設定</li> <li>・「読み方の謎」の設定による「読む視点」の焦点化、場面ごとの登場人物の行動の比較を促す場の設定と教師の関わり</li> <li>・繰り返し構造を持つ作品や登場人物の行動が変化する作品の提示、作品の関連性や類似性への気づきを促す教師の関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手・目的意識を明確にした単元を通して言語活動の設定</li> <li>・「物語の謎」の設定による「読む視点」の焦点化、叙述の比較・有機的関連付けを促す場の設定と教師の関わり</li> <li>・同じ作者の作品や同じ登場人物が登場する作品の提示、作品の関連性や類似性への気づきを促す教師の関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けるべき言葉の力を明確化した言語活動の位置付け</li> <li>・特定の思考過程を経由することを促し、かつ生徒の予想を覆しうる課題設定もしくは発問の工夫</li> </ul>

単元 の 序 盤	<b>Ⅲの変容</b> <b>Ⅰ</b> 状況的興味の喚起・維持を促すために 【言語意識を明確にした単元を貫く言語活動の設定】			
	教材名	教材の特徴	指導事項	言語活動例
	のらねこ	会話文が多く、人物の行動から気持ちを想像しやすい。	登場人物の性格を読む力	ア 物語や詩を読み、感想を述べ合う言語活動
単元 の 中 盤	<p><b>① 単元を貫く言語活動と「やるべきこと」への対話的・相談的な提案</b></p> <p>「2年生に向けて、自分が選んだ三木卓作品で音読発表会をひらく」という単元を貫く言語活動を設定する。今年度から学芸会で2年生の演目が劇になったこと、劇を演じるために2学年担任が「登場人物の性格をつかんだ音読」ができるようにしたいという願いを持っていることを伝え、3年生が2年生を救うためのプロジェクトとして「音読発表会」を提案する。また、2年生の見本となるような音読を行うためにぴったりの作品として会話文の多い「三木卓作品（中心教材『のらねこ』を含む）」が最適であることを伝え、児童が単元の見通しを持つことができるように簡単な学習計画を立てる。</p> <p><b>② 日常の言語生活との関連</b></p> <p>既習の「話すこと・聞くこと」領域の単元においては、「自分の得意なこと」「ちょっと不思議な物語」を話題としてスピーチ大会を行い、その体験から児童は「声に出して伝える」ことの大切さを実感している。そこで、「伝え方」としてスピーチ大会よりもレベルアップした方法が、日常の教科学習や行事等でも行うことができる「音読」であることへの理解を図る。</p> <p><b>③ 重視する「言語意識」</b></p> <p>5つの言語意識のうち、特に「相手」「目的」意識を重視する。「『2年生』が困るかもしれない」という相手意識を含んだ状況設定は、「2年生のために音読発表会をひらいて何とかしてあげたい」という子供の思い・願いと「音読発表会をひらく」という目的意識を繋げていくと考える。</p>			
	<b>① 日常の言語生活との関連を図りながら、言葉と関わろうとする子供</b>			
	<b>Ⅳ 個人的興味の出現を促すために 【読む視点を焦点化する教師のかかわり】</b>			
単元 の 終 盤	<p>作品と出合う段階</p> <p>中心教材との出会いの後、感想を交流しながら「物語の謎」について話し合う場を設定する。創出される謎としては、「ポケットの中にゴムのパチンコが入っているってどういうことだろう？」「ワールドアップって何のことだろう？」「前足で前足をなでるってどういう意味？」などの「<b>語彙理解、内容理解に関わる謎</b>」、「どうして、のらねこはリョウがゴムのパチンコをかくしていると思ったのだろう？」「どうして、のらねこなのに丸々と太っているの？」など「<b>日常の体験から想像して解決する謎</b>」、「なぜ、のらねこは近寄らせたくないの？」「どうして、突然いなくなったの？」などの「<b>登場人物の性格に関わる謎</b>」に分類しながら、児童が段階を追って謎に迫っていくことができるようにする。</p> <p>作品を読み進める段階</p> <p>分類した「物語の謎」を解決していくための方法として、「拡大した教材文に自分の解釈を直接書き込む方法」や「『解決カード』に解釈を書き溜める方法」など、多様な読み進める方法を紹介し、自分に「最適な方法」と「最適な謎」を選択することができるように教師が関わり、物語に浸っていくきっかけをつかむことができるようにする。</p>			
	<p><b>Ⅱ-① 内的活動の高まりを促すための工夫 【叙述の比較・有機的関連付けを促し、自己の読みを再構成する場の設定】</b></p> <p>主に、叙述の欠落を補填し、内容理解を促す発問や問い返しを行う。その際、語彙や漢字の獲得数が原因で読解ができない児童には、語彙の意味や漢字の読み方などが記載されているワークシートを紹介する。</p> <p><b>① 少人数による集団解決場面</b></p> <p>叙述の欠落を補填することに加え、矛盾や飛躍を修正する発問や問い返しを行う。その際、同じ謎を解決している児童同士をつなぎ、解釈や根拠とする叙述の交流を促すことで、自分の解釈にある程度の妥当性を持つことができるようにする。また、必要に応じて異なる謎を解いている児童同士をつなぎ、自己の解釈や根拠とした叙述に広がりや深まりが見られるようにしていく。</p> <p><b>② 全員による集団解決場面</b></p> <p>児童が根拠とした叙述や生み出した解釈を引き出しながら、場面の様子や各場面の登場人物の気持ちの関連に気付くことができるような発問や問い返しを行う。また、毎時間の終末に「登場人物の性格」を問うたり、作品を音読したりすることで、根拠とした叙述と生み出した解釈との関連を捉え直したり、場面と場面とを関連させたりしながら読むことができるようにする。</p> <p><b>【登場人物の気持ちと性格の関連に気付かせる発問・問い返しの例】</b></p> <p>① のらねこは、どうして疑い深いのか？ ② のらねこは、本当にお腹がすいていたのか？          ③ どうしてのらねこは、ぶすっとしたのか？ ④ どうして、のらねこは「かわいがられる」気になったのか？          ⑤ 風がそよそよふくって、どういうことなのか？ ⑥ のらねこは、屋根の上に登って、何を考えていたんだろう？</p>			
	<b>② 自ら言葉にはたらきかけながら、表現をよりよいものにしよう伝え合う子供</b>			
単元 の 終 盤	<p><b>Ⅳ 発達した個人的興味の出現を促すために 【獲得した言葉の力を自覚できるような本や文章の提示】</b></p> <p>中心教材で獲得した言葉の力を運用していくことができる本や文章を教師が選書し、児童に提示する。本単元における「中心教材との関連性・類似性」を以下のように捉え、他作品を選書する。</p> <p>① 同じ作者の作品、また同じ登場人物が作中に登場しているもの。          ② 会話文中心の文体であり、歯切れのよい短い文で綴られているもの。          ③ 登場人物の行動や会話から、それぞれの人物の気持ちを想像しやすく性格を考えやすいもの。</p> <p><b>【提示する作品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ はりがねネコ 三木卓作</li> <li>◆ イヌのヒロシ 三木卓作</li> <li>◆ えいっ 三木卓作</li> <li>◆ ぼたぼた 三木卓作</li> </ul>			
	<p><b>Ⅳ-① 内的活動の高まりを促すための工夫 【中心教材と他作品をつなぐ教師のかかわり】</b></p> <p>本単元序盤において、児童が他作品と関わったときに気付く「関連性や類似性」は、登場人物の会話文で綴られていることであると考える。獲得した言葉の力を無自覚のまま読み進めれば、中心教材で獲得した言葉の力が活用されることはない。</p> <p>そこで、自分の選んだ作品を読み進める際には、「登場人物の行動」「登場人物の会話」「登場人物の性格」など、中心教材とのつながりを意識し、個々に読みの視点を焦点化できるように教師がかかわっていく。また、選んだ作品を読み進める際には、中心教材で用いた方法と同じ方法を活用することを促し、言葉の力を意識的に用いようとする思考を引き出していく。</p> <p>このように、児童が「作品の関連性・類似性」を「読む視点」として焦点化することで作品との関わり方の妥当性を見いだすとともに、「読み進める方法」からもそれを見いだしていくことによって、自らの力で「論理的な矛盾や欠落、飛躍」に気付いていくと考える。</p>			
	<b>③ 言葉との関わり方が分かり、日常の言語生活との関連を図りながら言葉にはたらきかける子供</b>			

8 本時について（5/9時間目）

(1) 研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点Ⅱ－(1)について手立てを講じていくことになる。

前時まで、児童は物語の中から謎を発見する「解決カード①」や、のらねこの性格とその理由を自分なりの解釈で記述できる「解決カード②」、のらねこの性格に迫っていくことができる「解決カード③」を用いながら、「語彙・内容理解」や「物語の世界観」にかかわる「物語の謎」を解決してきている。

前時においては、「どうして、のらねこはかわいがってなんかくれなくていい！なんて言ったの？」「どうして、のらねこはそんなにかんづめがほしかったの？」「どうして、のらねこは自分のねこがそんなにかわいいか！なんて言ったの？」「どうして、のらねこはリョウがいい子だとわかったのに、近づくたびにどきどきなんて言ったの？」という、のらねこがリョウとの関わりによって心情が変わってゆくきっかけとなる「物語の謎」について読み進め、自分なりの解釈を生み出してきた。

本時では、まず自分が選択した「登場人物の性格に関わる謎」について、付箋紙や拡大教材文、解決カードを用いながら読み進めることができるようにする。

**個で言葉とかかわる場面**

自分の選択した謎について、自分なりの解釈を根拠付ける「証拠の文」にサイドラインを引くこと、なぜその文章が証拠と言えるのかという理由を教科書に書き込むことを促すことで、自分の解釈の一貫性を問うことができるきっかけになるようにしていく。また、この時点での解釈には、矛盾や欠落、飛躍あってもよい段階とする。

**少人数で言葉とかかわる場面**

解釈やその根拠となる文章とその理由について交流し比較する場を設定し、個で生み出した解釈に一定の妥当性をもたせることができるようにする。その際、解釈に欠落が生じている児童を中心として関わり、自分の解釈に一貫性をもたせることができるように、核となる叙述に気付かせていく。また、同じ謎を追究している児童、他の謎を追究している児童など、児童の活動を教師がつなぐことによって、自分の解釈の一貫性を確かなものにできるようにしていく。

**全員で言葉とかかわる場面**

『登場人物の性格が伝わるような音読』ができるように、のらねこの性格について自分なりの結論付けをする」という目的のもと、全員の解釈や根拠とする叙述を比較する場を設定する。その際、のらねこの心情を中心に問うことによって、「一貫した恐さの中に、かわいがりたいという不安にも似た期待が重なっていく」ことを捉えることができるようにする。また、児童が着目した叙述や生み出した解釈を整理していくことによって、のらねこの心情の変化を視覚的に捉えることができるようにする。

謎の追究が一段落した後、個に読みを返し、自身の解釈とその根拠、着目した叙述に一貫性をもたせ再構成することができるように、解決カード②に「のらねこの性格」について記述する場を設定する。

このような「双方向的な学びの構成」を含む場の設定によって、「自身の読みの一貫性を問う思考」を引き出し、「表現をよりよいものにしようと伝え合う姿」、すなわち個人的興味を連続・維持させていく姿につなげていくことができると考える。

(2) 本時の目標

解決カードに「登場人物の性格」を書いたり作品の音読をしたりしながら交流する活動を通して、登場人物の行動や会話に即しながら、その性格や気持ちの変化など、叙述を基に想像して読むことができる。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 □自己肯定感	【評価】 個に応じた指導 (△発展的▲補充的)
<p>○前時の学習を想起し、「登場人物の性格に関わる謎」を解き、音読発表会に向けて「のらねこ」の性格をはっきりさせて音読するという本時の見通しを持つ。</p> <p>・「のらねこ」の性格がはっきりしてきたよ。音読発表会で、2年生に登場人物の性格がよく伝わる音読ができるかもしれないね。 →のらねこが、「リョウ」がいい子だとわかったのに、近づいたら「ひっかくぞ」と言った理由ははっきりしたけど、その後はわからないままだったね。 →ぼくは、「母さんなんて・・・」の後にどうして言葉が続かなかったのかが気になるから、その謎を解くよ。 →私は、なぜのらねこが突然いなくなったのか考えてみるよ。</p>	<p>□前時まで「登場人物の性格に関わる謎」を解き「登場人物の性格」について一定の解釈を得ることができたことを想起することによって、本時においても謎を解くことで、解釈が根拠付けられるだろうという見通しを持つことができるようにする。</p>	<p>▲自分に適した謎を選ばず活動が停滞しそうな児童には、「謎を解決する過程」を対話を通して確認し、見通しを持って活動に取り組むことができるようにする。</p>
<p><b>「物語のなぞ」と「のらねこの性格」をはっきりさせて、お話を音読しよう～その2～</b></p>		
<p>○中心教材を読み進めながら物語の謎を解き、解釈を教科書に書き込む。 <b>個で言葉とかかわる場面</b></p> <p>・どうして、のらねこは「・・・」になったんだろう。 →きっと、お母さんのことを聞かれたからだよな？ →母さんに会ったことがないのにリョウに言われて、ちょっと悲しくなって言ったのかな？怒って言ったのかな？</p>	<p>□自分なりの解釈を根拠付ける「証拠の文」にサイドラインを引くことや、なぜその文章が証拠と言えるのかという理由を教科書に書き込むことを促すことで、自分の解釈の一貫性を問う</p>	<p>る児童には、「謎を解決する過程」を対話を通して確認し、見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。</p>

・どうして、のらねこはかわいがられる気になったのかな？  
→かわいがってもらったことがないから、「かわいがられる」ってことがとても気になったんじゃないかな。  
→リョウが「とても気持ちがいい」って言うてるな。この言葉が気になったのかもしれないなあ。

### 少人数で言葉とかかわる場面

・のらねこは、きっと怒って言ったんだよ。だって、「けち」とか、「ふん」って言葉のリョウに言う怒りっぽい性格だから、「母さんのことを聞かれた時も怒っていたんじゃないかな。」  
・「こわい」って思っているのらねこがかわいがられる気になったのは、「さわってあげたり、だいてあげたり、なでてあげたり」って言葉がとても気になったんだと思うよ。  
・リョウのことを少し信用していたから、「いじめない」って思っていたのかな。いつもなら、すぐに逃げてしまうものね。リョウが、「なだめる」ように言っているよ。  
・リョウのねこがやって来て、気を遣ったんだよ。リョウにかわいがられているところを見られたら、「悪いな」って思ったのかもしれないよ。  
→かわいがってほしいって気持ち、どこで勝ったんだろう？ 班に戻って話し合ってみよう。

### 全員で言葉とかかわる場面

「かわいがってほしい」って気持ち、どこで勝ったんだろう？

<p>「足をのびし合う」 ・あと50センチから足だけをのびし合うってところから、かわいがってほしいって気持ちがよくわかるよ。</p>	<p>「びくっとします」 ・このびくっには、恐さもあったけれど、かわいがってほしいって気持ちが強かったからさわらせたんだと思うよ。</p>	<p>「じっとしています」 ・リョウがのらねこにやさしくなだめてくれたから、ここでじっとしていられたんだと思うよ。</p>
--	---	---

どうして、のらねこは、じっとすることができたの？  
・リョウが、「小さな声で、なだめるように」言ってくれたからだよね。「そっと」さわってくれていることも、きっとそうだね。

「母さんなんて・・・」を選んだ人もいるよ？  
どうして、のらねこは、「母さんなんて・・・」になったの？  
・ここはちがうよ。だって、リョウに母さんのことを聞かれて、会ったことがないことを悲しんでいる文だから。「さびしがりや」につながるね。

どうして、のらねこはかわいがられる気になったの？  
・かわいがられたことがなくて、さびしかったから、いい子だとわかったリョウに、かわいがってほしかったのかな？

そうか。やっぱり、「かわいがってほしい」って気持ち「こわい」って気持ちに勝ったのは、ここだと思うな。

屋根の上からリョウたちを見ていたのらねこ、何を考えていたんだろう？

<p>屋根の上からリョウたちを見ていたのらねこは、一緒に遊びたかったのかな。</p>	<p>屋根の上から、まだリョウにかわいがられたいって思っていたのかもしれないね。</p>
--	--

お話の最初は〇〇なのらねこだったけれど、最後の方は〇〇なのらねこになっていったよ。

<p>用心深く見えるけれど、本当はさびしがりやなのらねこ。</p>	<p>怒りっぽく見えるけれど、本当は、やさしいのらねこ。</p>
-----------------------------------	----------------------------------

○個々に読みを振り返り、解決カードに「登場人物の性格とその理由」を書いたり、ペアで作品の音読をしたりする。

・僕は、「用心深く見えるけれど、本当はさびしがり屋なのらねこ」だと思うよ。なぜなら、最後でリョウに甘えたいって気持ちも出てきたから。  
→こんなふうに読むと、その性格がよく伝わるかな。ペアでお話を音読してみよう。

○本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。

・物語の謎を解決していくと、登場人物の性格をはっきりさせることができたね。性格が伝わる読み方もはっきりしてきたよ。  
・「のらねこ」でできたから、他の「三木卓作品」でもできるはずだね。次は、自分の選んだ作品を読んでいこう。

ことができるきっかけになるようにしていく。また、この時点での解釈には、矛盾や欠落、飛躍があってもよい段階とする。

### Ⅱ-①

- 解釈やその根拠となる文章とその理由について交流し比較する場を設定し、個で生み出した解釈に一定の妥当性をもたせることができるようにする。Ⅱ-①
- 同じ謎を追究している児童、他の謎を追究している児童など、児童の活動を教師がつながるごとによって、自分の解釈の一貫性を確かめることができるようにする。Ⅱ-①

- 登場人物の気持ちについて一定の解釈を得ることができた後、解釈の根拠とその理由について全員で交流する場を設けることで、登場人物の行動や会話から気持ちの変化について気付くことができるようにする。
- 「かわいがってほしいという気持ちが勝ったのはどこか」を問うことをきっかけとして、のらねこの心情に寄り添っていくための核となる叙述に気付くことができるようにする。Ⅱ-①

- 解釈の交流の際、「母さんなんて・・・」という叙述にのらねこの「かわいがられなかった寂しさ」が含まれていることを通過することによって、内面の寂しさや悲しさに気付くことができるようにする。Ⅱ-①

- 「〇〇に見えるけれど、本当は〇〇な性格」である、という表面と内面の性格を問うことによって、のらねこの心情から性格を捉えられることに気付くことができるようにする。Ⅱ-①

- 解決カードに「登場人物の性格とその理由」についての記述や作品の音読を促すことによって、自分の読みに一貫性をもたせることができるようにする。Ⅱ-①
- 自分の読みの根拠がより明確になったことを価値付けることによって、次時において活動に取り組む意欲が高まるようにする。

【読工～  
観察・発言・記述】

- ▲ 必要に応じて、物語の流れと核となる叙述を捉えることができるカードを紹介し、出来事を整理しながら読み進めることができるようにする。
- △ 他の児童が着目していない叙述に着目していた児童がいた場合、そのよさを十分に認め必要に応じて紹介する。

- ▲ 核となる叙述に着目できていなかったり、内容理解ができなかったりする児童がいた場合は、必要に応じて問い返すことで読解を促すことができるようにする。

- △ 他の児童が着目していない叙述に着目していた児童がいた場合、そのよさを十分に認め必要に応じて紹介する。

【読工～  
観察・発言・記述】

- △ ▲ 個々に登場人物の関係性を豊かに読み進めてきたことを十分に認め価値づけることで、次時における言葉とのかかわり方に自信がもてるようにする。